

令和6年度 石津地区福祉活動計画評価表

スローガン	助け合い支え合う石津地区
-------	--------------

重点課題	高齢者の移動手段の確保
------	-------------

事業名	推進方法	評価
高齢者移動サービス	- ボランティアの協力を得て、車両を使って送迎する。 - ボランティアの高齢化が進んでいるので、世代交代を進める。 - 関係団体と連携したり、個別折衝などでボランティアの発掘を行う。 - サービス利用者受入時のルールの整備を図る。	○

現状及び今後の方針		
- ボランティアの高齢化が進み体調不良となり、ボランティアの確保が課題である。 - 関係団体と連携及び個人折衝でボランティアの確保に努める。 - 年度末の利用登録者113名。実施日数238日、利用数676回。 - 利用者の高齢化による課題が顕在化しており、個別の対応を検討する必要がある。 - 受付ボランティアと運転ボランティアの連携、情報共有が必要である。 - サービス利用者の個別の課題について、役員間で共有し、対策を講じた。		

重点課題	高齢者の憩いの場の提供
------	-------------

事業名	推進方法	評価
石津地区サロン運営事業	- 毎月第4金曜日に定期開催。 - 参加者増員に向け、「地区社協だより」、関係団体、個別連絡など幅広い周知。 - 併設する「朝市」の出品内容に充実。 - 他地域（市内・市外問わず）のサロン運営の視察するなど、運営の改善を図る。	○

現状及び今後の方針		
- 毎月定期開催の周知のため、「地区社協だより」によるPRを行った。 - 朝市の内容充実のため、役員だけでなく地域の人に幅広く声掛けを行った。 - 運営改善に向けて視察はできなかったが、役員間での検討を重ね、参加者の増員ができた。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 石津地区福祉活動計画評価表

スローガン	助け合い支え合う石津地区
-------	--------------

重点課題	地域コミュニティの核である小学校との連携
------	----------------------

事業名	推進方法	評価
世代間交流推進事業	①米づくり体験活動（石津小学校の行事に協力） ・ 境自治会、農業ボランティアと協力し、地区社協の有志も活動に参加する。	○
	②さつま芋作り体験活動 ・ 田鶴地区の農業ボランティアの指導で、地区の認定こども園（2園）の年長組園児と石津小学校1年生児童がさつま芋作り体験活動（苗植え、芋掘り、焼き芋パーティー）を行うのに、地区社協の有志も参加する。	○
	③福祉標語の募集 ・ 石津小学校の6年生を対象に、福祉に関する標語を募集する。 ・ 優秀作品（12点）を表彰し、石津地区社協だよりに掲載する。	○
	④「コミュニティースクール」に参加し、地域の活動として取り組む。	○

現状及び今後の方針
・ 計画通りに実施ができた ・ ボランティアの高齢化に伴い、実施方法の検討が必要。

重点課題	地区社協の活動を広く周知する
------	----------------

事業名	推進方法	評価
「地区社協だより」の発行	・ 2ヶ月に1回、「石津地区社協だより」を発行する。 ・ 編集体制を確立し、読みやすく親しみやすい紙面づくりを行う	○

現状及び今後の方針
・ 2ヶ月に1回、「石津地区社協だより」を発行。自治会に回覧するほか、コンビニに設置し幅広く周知した。 ・ 「石津地区社協だより」の第100号記念とし、地区社協朝日会長と市社協森会長の対談を企画し、特別号として発行した。また、避難所体験も特集記事とした。 ・ 地区社協の活動を周知するとともに、読みやすく、見やすい紙面にするために検討を重ねた。 ・ 協賛事業を募り、財源を確保していく必要がある。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 石津地区福祉活動計画評価表

スローガン	助け合い支え合う石津地区
-------	--------------

重点課題	子どもからお年寄りまで安心・安全暮らせる地域づくり
------	---------------------------

事業名	推進方法	評価
①スクールボランティア	- 自治会や関係機関と連携し、人材確保を図る。 - 学校と協力し、児童の交通事故防止や地域の安全対策への意識の向上を図る。	○
②防犯パトロール、青色パトロール	- 青色防犯パトロールの実施により、安全対策を行っている地域であることのアピールをする。 - 高齢者等の行方不明者の捜索やごみの不法投棄のパトロールなど、行政や警察との協力関係を構築する。 - 区や自治会と連携し、新たなボランティアの増員を図る。	○
③防災	- 防災士と連携し、必要と思われる啓発活動を計画する。 区、自治会に呼び掛け、具体的な活動につなげる。	○

現状及び今後の方針

①スクールボランティア - 学校、PTAと連携し、登下校時の見守りを継続した。 - 小学校発行の「みかんの里」をボランティアへ配布し、学校との連携、情報共有を行った。 区、自治会と連携し、新しい人材確保を図った。 ②防犯パトロール、青色防犯パトロール - ボランティアの確保に努め、パトロールの回数の維持を図った。 - 行方不明者の捜索、ごみの不法投棄の発見の協力を継続した。 - 小学校や警察の事業に積極的に参加し、連携および情報共有に努めた。 ③防災 - 令和6年12月1日に避難体験実施。 - 防災士会、赤十字会、消防団、区、自治会や行政と連携し、能登半島地震の経験などの学習会を行った。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった